



夢は叶う

約2年前の2014年8月12日、北里大学小野沢先生と東海大学の堀越先生と2025年問題について課題を話し合っていました。数年後には超高齢多死時代を迎え、特に都市部では救急車の搬送が今よりも増えていくこと、そして、それぞれの地域で、人生の最終段階に対応できる人材が増えていく必要があることなどが話題でした。当時の私は、めぐみ在宅クリニック内で、人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクト（JSP）を立ち上げ、2日間の研修会を始めていました。その当時の夢は、今まで学んで来たホスピス・緩和ケアのマインドと具体的な関わり方を医療職のみならず介護職にも伝えて行くことでした。

社会が変わるためには、“人”が大切です。どれほど必要性を訴えたとしても、そこに“人”がいなければ社会は変わりません。そのためには、現場で働いている“人”の共感と参画が必要です。援助をわかりやすい言葉にすることで、たとえ大きな苦しみを抱えた人が目の前にいたとしても、医療職のみならず介護職や家族でも関わる事ができるという魅力を、伝えたいと願っていました。そして、それぞれの地域で、補助金頼みではなく、継続的に、そして自主的にこのテーマを学び、広める可能性を夢見ていました。

あれから2年、エンドオブライフ・ケア協会の活動が始まり、エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座受講生が1000人を越えました。そして、横須賀市医師会からの依頼を受けて9月17日18日に横須賀市でエンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座を開催し、100名を超える参加者がありました。横須賀市は人口20万人以上の自治体の中で、最も在宅看取り率の高い都市として有名になった都市です。横須賀市のすごい所は、医師会と行政の連携が密であるだけでなく、看取りの質を高めようと努力している点にあります。そして2日間の研修を終えた人達を中心となって、学んだことをそれぞれの事業所、法人、そして地域で自主的に学習会を開催できるようになることが大切です。そのためにも、医師会と行政の共催で12月に再び看取りの質を高めるためのエンドオブライフ・ケア研修を開催することになりました。順調にいけば、来年早々には、横須賀市内の各事業所や地域で自主的なエンドオブライフ・ケアの学習会が開催されることでしょう。

一人の力は小さくても、あわせて行けば大きな力になります。そして、夢をもって活動すれば、叶うこと

があると感じました。今は横須賀市1箇所ですが、これから全国の自治体に広がることを夢見ています。

小澤竹俊

在宅ボランティア

めぐみ在宅クリニック開設以来、初めてとなる在宅ボランティアを新設することになりました。というのも既存のフォーマルなサービスでは対応できないことが多々あるからです。特に神経難病の患者さんが買い物や旅行などの希望に応えることができるようにと、まずは活動を開始します。在宅ボランティアとして登録したのは、30年来の旧友である大関さんです。私がまだ医学生だった頃に、上智大学で開催されていた生と死を考える会で、活動していた看護師さんです。徐々に活動の輪が広がることを期待したいと思います。

施設看取り支援のための勉強会企画

施設での看取りを支援することを目的に、地元の瀬谷区泉区を中心に勉強会を立ち上げることになりました。看取り介護を実践している経験を、これから施設での看取りを取り組もうとする施設と共有することを目的とします。今回は特養を対象としています。詳細は、めぐみ在宅クリニック地域連携室まで。

女性セブンで連載が始まります

この9月より女性セブンで連載が始まります。人生最後の日、あなたはどのように向き合いますか？というテーマです。これからの時代、病院まかせ、医療者まかせではなく、自分自身で考えていくことが求められる時代になるかと思えます。ご期待下さい。

診療実績

	2006-2015年	2016年 1月~5月	2016年 6月	2016年 7月	2016年 8月	2016年 計	総計
訪問回数	41,344	4,023	823	799	770	6,415	47,759
自宅永眠	1,528	118	24	20	18	180	1,708
施設永眠	158	19	6	4	7	36	194
在宅 (自宅+施設)	1,686	137	30	24	25	216	1,902
病院永眠	397	30	8	5	10	53	450